

1年「いきものとなかよし」・2年「生きものなかよし大作せん」 ～ 生きものをしあわせにしよう 「木はら生きものしあわせけんきゅうじょ」～

本単元で育成する資質・能力

表現力 主体性・自信・協働性

- 1 日 時 令和6年6月24日（月） 第5校時
2 学 年 第1学年 2名 第2学年 3名 計5名
3 単元のデザイン

(1) 単元について	(2) 児童について
本単元は、学習指導要領解説生活編の内容（7）「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」を受けて設定したものである。身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物に親しみをもち、小さな生き物にも命があることに気付くことで、生き物が生きている自然と人間との関わり方について意識を高めることができる。 また、たくさんの生き物と出会い、生き物の生態の多様さやおもしろさに触れることで自然の豊かさや大切さに気付くことができる。そして、生き物がたくさんいる豊かな自然は、人間にとっても生きていくためにかけがえのないものであるという意識を育てることができる。 本単元の学習は、1年生は、国語科「みんなにはなそう」や説明文「さとうとしお」「どうやってみをまもるのかな」の学習と関連させていくことができる。2年生は、国語科「かんさつしたことを書こう」や説明文「たんぽぽ」の学習と関連させていくことができる。	本学級の1年生は、2名とも同じ幼稚園から入学してきており、幼稚園で年中の時からカタツムリやダンゴムシを飼育した経験がある。1名は、生き物が大好きで家庭でも生き物を飼ったり生き物に関する本を見たりする経験が多く、生き物に関する知識も豊富である。しかし、もう1名は昆虫に対して苦手意識がある。 2年生は、1年生の時に生活科の学習で、モンシロチョウ、アゲハチョウ、ヤゴ、ダンゴムシ、バッタなどを飼った経験があり、自分が調べた生き物に対しての知識がある。その内の1名は、昆虫がとても苦手であったが、実際にダンゴムシを飼ったことで、ダンゴムシには親しみをもちることができた。その児童は、昆虫が苦手な1年生に対して「僕も嫌いだったけど、育てたら虫が好きになったよ。」と声をかけていた。また、「今年は、ダンゴムシの赤ちゃんを大きくなるまで育てたい。」という強い思いを抱いている。他の2名は、もともと生き物好きであったうえに、昨年生き物を飼ったことで、さらに生き物が好きになり、昨年の経験をもとに1年生にアドバイスをする姿も期待できる。また、全員が「虫たちを幸せにしたい。」という思いを抱いている。 資質・能力等について児童アンケートを実施（令和6年5月）したところ、「みんなの前で自信をもって話したり説明したりしています。」という項目では、全員が肯定的回答をしている。しかし、「相手に伝わるように工夫して話しています。」という項目では、5名のうち2名が否定的回答をしている。また、「いちばん話したいことを初めに言っています。」という項目でも、2名が否定的回答をしている。これらのことから、表現の場に対する苦手意識はないが、相手意識や目的意識をもった表現が不十分であったり、伝えたいことを明確にしないまま話したりするなど、表現力に課題が見られる。
(3) 単元で追究する問い	
①本質的な問い〈何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」〉 ・生き物がくらしやすい自然を守るために、私たちにできることは何だろうか？	
②単元を貫く問い〈単元を通して考え深めていく「問い」〉 ・生き物がくらしやすい自然は、どんなところだろうか？	
③個別の問い〈単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等〉 ・生き物は、どんなところがすきなのかな？ ・どうして○○は、こんなところにいるのかな？ ・生き物は、どのように大きくなっていくのかな？ ・もし○○だったら、どうしてほしいかな？	
(4) 指導の手立て	
本単元の指導に当たっては、次の3点の工夫を行う。	

①生き物と関わる時間を多く設ける。

児童が活動に熱中し没頭することができるように、安全に活動できる場の設定に配慮しながら飼育環境を整えていく。また、生き物の観察や世話など日常的な関わりを繰り返しもたせることで、生き物への興味・関心を高めるとともに、活動したことを伝えたいという思いや願いが高まるように、意図的・計画的に学習活動を展開する。

②感じたことや気付いたことを表現する機会を意図的に設ける。

児童が生き物に心を寄せ、「伝えたい」という思いをもつことができるように、学習過程の様々な場面で伝え合いの場を設定し、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの活動を促すために、声かけを行っていくようにする。また、常時活動で試したことや困っていることを伝え合う時間を設定し、自分の思いや気付きを自覚させたり、一人一人の気付きや思いを全体で共有したりするとともに、次に自分がしたいことを考えさせ、意欲的に活動できるようにする。

③虫が得意な児童、苦手な児童が互いに関わり合う活動を設ける。

虫が得意な児童と苦手な児童が協力しながら無理なく学習に取り組めるように、クラス全体で自分や友達の生き物の世話や観察を行うようにする。互いの関わりの中で、生き物の特徴や触れ合い方の工夫といった新たに発見したことを、自分の世話に生かすことができるようにする。

本校の目指す資質・能力を育成するために次のような指導の手立てを行う。

- ・話し合いの場において、話し合いの進め方を示した「学びのステップ」表を活用しながらリーダーを中心に進めていく。
- ・日頃から、自分の考えを話す際には、声の大きさに気をつけること、相手の方を見て話すこと、結論先行で話すこと、理由を付け加えることなどを指導する。

4 単元のねらい

(1) 単元の目標

身近な生き物を探したり飼ったりする活動（第1学年）、継続的に生き物を飼育する活動（第2学年）を通して、

○それらは生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。【知識及び技能の基礎】

◎それらの育つ場所や、変化の様子に関心をもって働きかけることができる。【思考力・判断力・表現力等の基礎】

○生き物への親しみをもち、適切な世話をし、大切にしようすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、それらは生命をもっていることに気付いている。	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
第2学年	継続的に生き物を飼育する活動を通して、それらが生命をもっていることや成長していることに気付いている。	継続的に生き物を飼育する活動を通して、それらの生態や変化、成長の様子に関心をもって働きかけている。	継続的に生き物を飼育する活動を通して、生き物への親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。

(3) 児童に示す姿（資質・能力）

①いきもののとくちょう（いろ・あしのかず・からだのようす）がわかる。 ②いきもののへんかやせいちょうがわかる。	①あいてにつたわるようにくふうしてはなす。 ②りゆうをつけてはっぴようする。	①さいごまであきらめずにがんばる。 ②ともだちときょうりよくする。（おしえあう・いっしょにかつどうする）
--	---	---

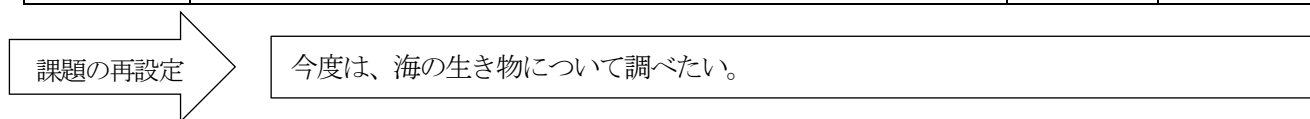
5 小単位における評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年
第1次				①これまでの経験を想起しながら、身近な生き物について友達と話している。		
第2次	①校庭の生き物の特徴や育つ場所に気付いている。	①生き物の育つ場所の特徴に気付いている。	①生き物を観察することについて、色や形、音、動き方などを意識しながら、生き物の特徴を捉えている。	②これまでの経験や聞いたことや調べたりしたことを基に、いる場所を予想しながら生き物を探している。	①身近な生き物について、進んで関心をもち、積極的に関わろうとしている。	
第3次	②生き物が変化していることや、生命をもっていることに気付いている。	②生き物も自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ③適切な方法で、生き物の世話を継続的にしている。	②餌やりや掃除などをしながら生き物の様子を観察したり、本などで調べたことを試したり、取り入れたりしながら世話をしている。	③生き物の立場に立って関わり方を見直ししながら、世話をしている。 ④これまでの様子と比べたり、形や動き、色などを知っているものに例えたりしながら、生き物の変化や成長の様子を捉えている。	②生き物の様子に応じて世話の仕方を変えることの大切さを実感している。	②生き物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に応じて、世話をしようとしている。
第4次			③生き物の様子について、実際に触れてみて気付いたことや思ったことを表現している。	⑤生き物の成長の様子について、資料やカードなどの記録を使って比べたり、自分たちの世話の仕方と関連付けたりしながら、様子や変化が伝わるように工夫して表現している。	③世話をしてきた生き物に親しみをもち、これからも生き物を大切にしようとしている。	
第5次		④生き物の様子に合わせて世話をすることができるようになった自分の成長に気付いている。		⑥生き物との関わりを振り返りながら、世話をし気付いたことや生き物への思い、自分自身の成長を表現している。	④生き物との関わりが増したことに自信をもち、これからも生き物を大切に、関わり続けようとしている。	

6 指導計画（全14時間 本時 11／15）

探究の過程 (時間)	学習活動	【学年】 評価規準	評価方法
第1次 課題の発見 (1時間)	生きもののことをはなそう！ ○ふだんの生活の中で見付けた生き物について話し合う。 ○本単元のねらいと活動計画について知る。 木はらにいる生きものをしあわせにしよう。 ○どこにどんな生き物がいるか、採集に行く計画を立てる。 生き物は、どんなところがすきなのかな。	【2年】 思①	行動観察 発言
第2次 体験 (2時間)	生きものをさがそう！ ○校庭や学校園、プールに行って、生き物を探す。 ○採集した生き物を観察する。 紙とデジタルの選択 紙:絵を描いて記録する。デ:クロムブックで写真や動画を撮る。 この生き物のことをどうやって調べようかな。 ○気に入った生き物について、特徴（体の形・色・足の数・動き方・えさ・すみか・成長の仕方など）を調べる。 紙とデジタルの選択 紙:図書の本で調べる。デ:クロムブックで調べる。 ○気付きや調べてわかったことなどをカードに書く。 この生き物を飼うには、どんなすみかをつくれればいいのかな。	【1年】 知① 思① 態① 【2年】 知① 思② 態①	行動観察 発言 記録カード
第3次 体験・表現 (4時間)	生きものをそだてよう！ ○自分が選んだ生き物にとって、どんなすみかがいいのかを調べる。 紙とデジタルの選択 紙:図書の本で調べる。デ:クロムブックで調べる。 ○飼育ケースにすみかを作り、生き物を飼う約束（世話の仕方）を決める。 ○継続的に飼育を行い、観察し続ける。 毎日世話を続けたから、生き物のひみつ（変化・成長）がたくさん分かったよ。自分が調べた生き物のことをみんなに伝えたいな。	【1年】 知② 思② 態② 【2年】 知②③ 思③④ 態②	行動観察 発言 記録カード

第4次 表現 (5時間)	生きもののことをつたえ合おう！ ○誰に、どんなことを、どんな方法で伝えたいか計画を立てる。 どんなことをどんなふうに伝えたらいいかな。 ○生き物についての新聞の内容を考え、交流する。(本時2／5) ○発表の仕方を教え合い、工夫して、準備や練習をする。 ○発表会を行い、生き物のことを伝え合う。	【1年】 思③ 態③ 【2年】 思⑤ 態③	行動観察 発言 「おしえて いなカード」
第5次 表現 (1時間)	生きもののことをふりかえろう！ ○飼育活動を振り返る。 ○生き物を今後どうするのか、みんなで話し合う。 よく観察したから、広い自然に帰してあげよう。 ○生き物が生き生きと暮らせる環境は、人間にとっても暮らしやすい環境であることを絵本の読み語りを通して伝える。 生き物がたくさんいる自然っていいな。	【1年】 態④ 【2年】 知④ 思④ 態④	行動観察 発言 振り返り



7 本時の学習 【11／15】

(1) 本時の目標

これまで自分が調べたことや、飼育する中で変化・成長してきた生き物の様子について、自分が伝えたいことを選び、文章で表現することができる。

(2) 本時で育てたい資質・能力

相手意識、目的意識を明確にし、伝えたいことを表現する。(表現力)

(3) 準備物

これまでの記録カード、写真、クロムブック、飼育ケース、図鑑

(4) 他教科等との関連

・第1学年国語科

「どうやってみをまもるのかな」と関連させて、事柄の順序を考えながら伝えたいことを文章で表す。

・第2学年国語科

「かんさつしたことを書こう」と関連させて、説明の仕方以身に付けた「言葉の力」を活用して、伝えたいことを文章で表す。

(5) 学習計画

学習過程	学習活動	指導上の留意事項（・） ファシリテートの重点【項目】 個別に支援を必要とする児童への支援の手立て（◆）	○評価規準 ・評価方法 ☆資質能力
問題提示・課題把握 (つかむ)	1 本時の学習について確認する。 ・学習課題と目指す姿 生きもののひみつをもとに、「おしえたいなカード」をつくろう。 ・学習の流れ	・これまでの学習を想起させ、問題意識をもつことができるようにする。【Ⅰ－⑤】 ・本時の流れ等を提示するとともに、学習の進め方を学習リーダーに伝え、見通しをもつことができるようにする。【Ⅰ－③】	○【1年】思③ ○【2年】思⑤ ・行動観察 ・発言 ・「おしえたいなカード」 ☆相手意識、目的意識を明確にし、伝えたいことを表現している。
自力解決（考える）	2 自分が一番伝えたいことを記録カードやクロムブックの中の写真を見ながら選び、文章で表す。	・事前に児童の記録カードに赤ペン（価値付けたい気持ち）を入れておき、児童が自分の考えをまとめやすくできるようにする。 ・記録カードやクロムブックに保存している写真によって情報を視覚的に確認させ、自分の考えを整理することができるようにする。【Ⅱ－⑦】 ・伝えたいことが明確になるよう、気付きの視点（特徴、変化や成長、秘密、他との違い等）を助言する。【Ⅱ－③】 ◆伝えたいことをなかなか決められない児童には、記録カードと一緒に見ながら、「一番びっくりしたことは？」「すごいなあと思ったことは？」と声掛けを行い、伝えたいことを明確にできるようにする。 ◆文章を考えられない児童には、記録カードに書いている内容を使えばよいことを助言する。	
（学び合う） 集団解決	3 2つのグループに分かれて、作成した文章についてアドバイスをし合う。 ・一人ずつ発表する。 ・アドバイスをする。（感想を言う。）	・グループに分かれてからの活動について説明し、見通しをもつことができるようにする。【Ⅲ－②】 ・お互いに知っていることや付け加えたらいいことをアドバイスさせる。【Ⅲ－④】 ◆アドバイスができない児童には、友達の文章のよいところを伝えるよう声掛けを行う。	
（まとめ・振り返る） R80 価値の深化	4 本時の学習を振り返る。 ・目指す姿についての自己評価 ・R80	・R80を全体で交流し、次の活動への意欲を高められるようにする。【Ⅳ－①】 ◆児童のよかった点について声掛けを行い、次時の学習への意欲を高められるようにする。	